

令和2年7月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和2年7月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

新型コロナウイルスの感染拡大防止への円滑な対応を図るため、田向地区の八戸市総合保健センターへの移転を延期していた市保健所などについて、8月11日から同センターで業務を開始することが決まりました。

これにより、6月1日から移転していた部署を含め、次の部署が同センターで業務を行うこととなります。

- ・八戸市保健所
- ・八戸市休日夜間急病診療所
- ・八戸市休日歯科診療所
- ・こども支援センター
- ・こども家庭相談室
- ・介護予防センター

◆八戸市総合保健センターの詳細はこちらをご覧ください（市ホームページ）

<https://www.city.hachinohe.aomori.jp/soshikikarasagasu/hokensomuka/seibijigyou/14823.html>

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 7月号 レポート

令和2年6月の八戸市内での出来事や
八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	コロナ感染者接触の可能性をメール通知 八戸市が独自サービス開始
(2)	マチニワで「アンブレラスカイ」開催 ～中心街に傘の"花々"～
(3)	種差海岸インフォメーションセンター 来館者80万人到達
(4)	「八戸港版・SDGs」第一弾 漁船による海底ごみの回収を実施

【産業】

記事	概要
(5)	VISITはちのへ オンラインショップ開設 八戸圏域の特産品をインターネット通販で
(6)	八戸青年会議所と八戸商工会議所青年部 クラウドファンディングで市内飲食店応援
(7)	八食センターが宅配サービス 外出控えに対応
(8)	八戸青年会議所「献血の輪プロジェクト」開催
(9)	青森県開発サクランボ「ジュノハート」7月1日全国デビュー
(10)	～八戸の地ビールを造りたい～ 元経営者とUターン青年が醸造会社設立

【地域】

記事	概要
(11)	「種差朝ヨガ」開催 ～波音が癒やし リフレッシュ～
(12)	ドローン検定 工大一高の上林さんが最難関の1級合格
(13)	八工大がフェイスシールド製作 市民病院に300個寄贈へ

【文化・スポーツ】

記事	概要
(14)	青森県高野連 甲子園に代わる独自大会決定 ～"夏"が来る 球児歓喜～
(15)	2023年国民スポーツ冬季大会 八戸開催案が浮上
(16)	八学大男子バスケット部の笹井さん 国内最年少でA級審判の資格取得
(17)	甲子園の代替大会 クラウドファンディングで甲子園と同じ土を搬入へ
(18)	マチニワに八戸三社大祭の伝統山車展示
(19)	「八食サマーフリーライブ」開催見送り ～20回目の思い 来年に～

【行政】

記事	概要
(1)	<p>コロナ感染者接触の可能性をメール通知 八戸市が独自サービス開始</p> <p>八戸市は、公共施設や飲食店などで新型コロナウイルスの感染者と接触した可能性がある場合、同じ日時に居合わせた人に注意喚起を促すメールを配信する「はちのへwithコロナ あんしん行動サービス」(愛称・CODE8)の運用を始めた。施設利用時にメールアドレスを登録してもらい、市が感染者を確認した際、迅速に情報を提供する。6月6日、市内のスポーツ関連12施設で開始した。同様の通知サービスの導入は青森県内初、東北地方では宮城県に続き2例目。</p>
(2)	<p>マチニワで「アンブレラスカイ」開催 ～中心街に傘の"花々"～</p> <p>マチニワで、色とりどりのビニール傘が天井空間を彩るイベント「アンブレラスカイ」が6月1日から30日まで開かれた。梅雨の時期の市中心街に新たな魅力を創出しようと、八戸ポータルミュージアム「はっち」が今回初めて企画した。傘は赤や黄色など全7色。長さ25メートルのロープ8本に15本ずつ、計120本の傘をつるした。宙に浮いた傘の"花々"が、訪れる市民の目を楽しませた。アンブレラスカイは来年度以降も実施する方針。</p>
(3)	<p>種差海岸インフォメーションセンター 来館者80万人到達</p> <p>種差海岸インフォメーションセンターの来館者数が6月21日、80万人に到達した。同センターは、三陸復興国立公園の種差海岸天然芝生地を望む場所に立地。国立公園内に自生する植物の紹介や「みちのく潮風トレイル」などの情報の発信拠点となっている。2014年7月にオープンし、2019年4月には来館者数70万人を突破した。記念の来館者は、おいらせ町から訪れた天間さん夫妻と、天間さんの友人で三沢市から来館した安藤さん夫妻のグループ。センター内で行われた記念のセレモニーでは、4人に花束や記念品を贈呈するなどして節目を祝った。</p>
(4)	<p>「八戸港版・SDGs」第一弾 漁船による海底ごみの回収を実施</p> <p>八戸市の水産関係6団体と市は6月27日、国連の掲げる海洋資源の持続可能な開発目標「SDGs(エスディー・ジーズ)」の一環として、沖合底引き網漁船による八戸沖の海底ごみの回収を実施した。八戸機船漁協所属漁船が八戸港から10～15キロの海域で作業し、漁網で水深約150メートルの海底ごみを引き上げた。ごみはフォークリフト用の木製パレット5枚分。石や木片が多かったものの、旧型の洗濯機や針金、長靴なども交じていた。海の漂流物撤去に対する環境省の補助事業の対象が本年度から拡大されたことを受けて初めて実施したもので、6団体は今後も定期的に続けたい意向である。</p>

【産業】

記事	概要
(5)	<p>VISITはちのへ オンラインショップ開設 八戸圏域の特産品をインターネット通販で</p> <p>八戸圏域版DMO(観光地域づくり推進法人)「VISIT(ビジット)はちのへ」は、ホームページ内にオンラインショップを4月に開設した。順次取扱商品を増やし、5月29日時点で計56品を販売している。商品は八戸せんべい汁、いちご煮、締めさば、ニンニク加工品、紅玉のりんごジュース、鶴子まんじゅうなどバリエーション豊かに取りそろえた。新型コロナウイルスの感染拡大で地元の観光産業や物産販売が影響を受ける中、インターネット通販を強化して事業者の販路拡大を支援する。</p>

(6)	<p>八戸青年会議所と八戸商工会議所青年部 クラウドファンディングで市内飲食店応援</p> <p>新型コロナウイルスの影響で売上げが落ち込んでいる八戸市内の飲食店を応援しようと、八戸青年会議所と八戸商工会議所青年部は、6月14日にクラウドファンディングを活用して応援資金を募る「八戸活性化プロジェクト」を始めた。支援者は応援したい店舗を事前に指定し、1口3千円分を支援すると、1100円分のチケット3枚、5千円の場合は1100円分のチケット5枚が返礼品として送られてくる。集まった資金は各店舗の運転資金などに充てられる。</p>
(7)	<p>八食センターが宅配サービス 外出控えに対応</p> <p>八食センターは、料理や食材などを宅配する新サービス「おうちDE八食」を5月17日から展開している。八戸市北西部を配達エリアとして試験的に実施。バーベキューセット、すし、刺し身の盛り合わせ、オードブルといった7種類のセット商品が対象で、配達料は無料。新型コロナの影響で、八食の客足も減少し、現在も平日は例年の6～7割、土日は8割程度にとどまっているため、ニーズが高まる宅配事業の可能性を探る。</p>
(8)	<p>八戸青年会議所「献血の輪プロジェクト」開催</p> <p>八戸青年会議所は6月14日、YSアリーナ八戸の駐車場で「献血の輪プロジェクト～8市町村でつなぐ助け合い～」を開催した。プロジェクトは、完全予約制の献血、お礼として好きな弁当を一つ贈呈、ドライブスルーによる弁当販売の3事業を組み合わせ実施した。新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、輸血用の血液が減った医療機関と売上げが減った飲食店を同時に支援するのが目的。献血には約60人が協力して、8市町村の飲食店20店舗が参加。弁当販売では、計400食が売れた。</p>
(9)	<p>青森県開発サクランボ「ジュノハート」7月1日全国デビュー</p> <p>青森県が開発したサクランボの独自品種「ジュノハート」が、7月1日に全国デビューを迎えた。東京の伊勢丹新宿店と新宿高野本店で1日に取り扱いが始まり、2日からは大阪の阪急うめだ本店でも販売。ジュノハートは3L（横径28ミリ以上）サイズの大玉で、糖度20度以上の甘さが特長。デビューした昨年は県内でのみ販売され、今年初めて全国で売り出された。</p>
(10)	<p>～八戸の地ビールを造りたい～ 元経営者とUターン青年が醸造会社設立</p> <p>八戸の地ビールを造りたい。そんな思いを胸に、企業の元経営者の山形琢一さんと東京からUターンした小倉翔太さんが二人三脚で活動している。今年3月に新会社「カネク醸造」を設立し、現在は醸造所の候補地選定などを進めている。八戸らしさを追求するため、南郷地区のブルーベリーやイチゴ、リンゴなどのフルーツを使ったビールを造る予定。今年中に醸造所を開設し、来年の早い段階での出荷を目指す。</p>

【地域】

記事	概要
(11)	<p>「種差朝ヨガ」開催 ～波音が癒やし リフレッシュ～</p> <p>種差海岸天然芝生地で6月6日、波音を聞きながら芝生の上でヨガが楽しめる「種差朝ヨガ」が始まった。今年は5月30日に始める予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期していた。参加した市民ら約100人が雄大な太平洋を前に、朝日を浴びながら心身をリフレッシュした。種差朝ヨガは9月までの毎週土曜と第4日曜に開催。時間は午前7～8時。参加料は500円（小学生以下無料）で予約不要。</p>

(12)	<p>ドローン検定 工大一高の上林さんが最難関の1級合格</p> <p>ドローン検定協会(株)が実施する無人航空従事者試験(ドローン検定)で、八戸工大一高工業科建築コース3年の上林瞭さんが、最難関の1級に合格した。同検定は筆記試験のみで、飛行に関する特性や工学、気象、関係法令などの知識が問われる。1級は高校で学ぶ水準よりも高度な内容だったため、公式テキストなどを参考に独学を続け、2度目の挑戦で見事、難関を突破した。同校によると、高校生の1級取得は青森県内では初めてという。</p>
(13)	<p>八工大がフェースシールド製作 市民病院に300個寄贈へ</p> <p>新型コロナウイルスの対応に追われる医療現場を支援しようと、八戸工業大が飛沫などによる感染を防ぐフェースシールドを製作している。フェースシールドの需要が全国的に高まり、手に入りにくい状況を知った同大工作技術センターの日影学工師が、顧問を務める同大のサークル「メカトロニクス研究会」の学生と共に取り組みを始めた。八戸市立市民病院に計300個を寄贈する予定で、生徒や教員らは「医療従事者の力になりたい」との思いを胸に、急ピッチで作業を進めている。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(14)	<p>青森県高野連 甲子園に代わる独自大会決定 ～"夏"が来る 球児歓喜～</p> <p>青森県高校野球連盟は6月5日、中止となった全国高校野球選手権大会(夏の甲子園)と同青森大会の代替大会として、「夏季県高校野球大会」を独自開催すると発表した。会期は当初の青森大会と同じ7月14日から28日までで、トーナメント戦。開催に当たっては、日本高校野球連盟が示した感染症拡大防止のためのガイドラインに沿って、当該試合の部員や保護者を除いて無観客で行う。甲子園の夢はかなわない夏だが、県内の野球部員には安堵と喜びが広がり、本番での完全燃焼を誓っている。</p>
(15)	<p>2023年国民スポーツ冬季大会 八戸開催案が浮上</p> <p>2023年の国民スポーツ大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会について、八戸市を主会場とする案が浮上している。2019年に市立屋内スケート場「YSアリーナ八戸」、2020年には多目的施設「フラットアリーナ」が完成するなど競技施設が充実し、運営ノウハウもある八戸市が候補地として上がり、日本スポーツ協会が地元競技団体と開催の可能性を模索しているとみられる。冬季大会の開催が決まれば、2020年に行われた「氷都新時代!八戸国体」以来3年ぶりで、国内最多の14回目となる。</p>
(16)	<p>八学大男子バスケ部の笹井さん 国内最年少でA級審判の資格取得</p> <p>八戸学院大男子バスケットボール部3年の学生コーチ兼審判を務める笹井彪我(ひょうが)さんが、昨年度末に国内最年少でA級審判の資格を取得した。A級審判は国内のプロリーグ以外、ほとんどの大会で審判を務めることができる資格で、青森県内では6人目となる。笹井さんは7月に行われる、県高校総合体育大会の代替大会・県高校夏季大会でA級審判デビューを果たす。</p>

(17)	<p>甲子園の代替大会 クラウドファンディングで甲子園と同じ土を搬入へ</p> <p>新型コロナウイルスの影響で、甲子園球場でプレーする夢を絶たれた青森県内の高校球児を励まそうと、クラウドファンディング(CF)による「青森県の高校野球応援プロジェクト」が、青森銀行野球部有志と県高野連により6月17日から始まった。甲子園の土と同じ物を購入し、代替大会で決勝の舞台となる青森市営球場に届ける。CFの期間は7月10日までで、目標金額は300万円。土の購入費のほか、代替大会の運営費などにも充てられる。(6月23日時点で300万円に到達し、運営費充実を図るため、7月10日まで400万円を次の目標に設定した)</p>
(18)	<p>マチニワに八戸三社大祭の伝統山車展示</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響により今年の八戸三社大祭で山車運行、展示が取りやめになったことを受け、全27山車組で組織する「はちのへ山車振興会」は、マチニワを会場に、7月31日～8月16日の期間に小型の山車3台を展示する計画を明らかにした。1台のサイズは幅、奥行き共に約2.7メートル。山車の原点に立ち返り、基本型である岩、波、建物の3パターンの伝統山車を想定する。今年で三社大祭が発祥300年目を迎えることを祝福し、市民が祭りの伝統に触れる機会を創出する。</p>
(19)	<p>「八食サマーフリーライブ」開催見送り ～20回目の思い 来年に～</p> <p>夏の風物詩の野外音楽イベントが全国で中止や延期に追い込まれている中、八戸市では八食センター駐車場で毎年開かれるロックフェスティバル「八食サマーフリーライブ(HSFL)」が初の開催見送りとなった。HSFL誕生のきっかけとなったのは、八戸市のCDショップ「フォーユー」が1999年に開いたライブイベント。2年後には八食センターや周辺店舗が連動した「八食4社大祭」の行事の一環として、八食を舞台にした野外フェスが誕生し、第一線で活躍するバンドがこれまでに多数出演してきた。出演者がどんなに豪華でも「八戸の食や観光も楽しんでほしい」との思いから入場料は無料。青森県外のファンを獲得し、八戸の知名度向上にも貢献してきた。今年が20回目の節目となるはずだったが、「思いは来年につなぐ」と関係者は強調し、ファンらとの"再会"を信じている。</p>